

旅の大衆化が進んだと言われる江戸時代、茨城の地にも多くの旅人が訪れました。

旅人たちは何に惹かれて水戸藩を訪れ、どのような風景や風土にふれ、そして何を語ったのでしょうか。一方、旅人たちを受け入れた人びとは、彼らからどのような影響を受けてきたのでしょうか。

いわゆる「よそ者」にまつわる記録から、地元では気づくことが難しい、水戸藩の豊かな「表情」を読み解いてみたいと思います。

猪岡 萌菜

成田山霊光館

名所絵という営為

「常陸名所図屏風」の景観表現

添田 仁

茨城大学

小津久足の文事と徳川光圀

「石文」時代の水戸藩

高村 恵美

常陸大宮市文書館

たどり合う戦国の記憶

佐竹西家の由緒調査と水戸領民

高橋 陽一

宮城学院女子大学

他領民がみた水戸藩

常陸の風土と光圀の遺児

フアンリテーター

佐藤 大介

東北大学

2022年

3月6日

13時～17時

旅人たちが 水戸藩を 観た

旅日記・
名所絵を
読む

Web会議サービスZoomを用いたオンラインシンポジウム
〈事前申込制/先着300名〉

※録音・録画等はお遠慮ください。

無料 受付期間：1/27～3/1

お申し込みは下記URLまたはこちらから
<https://forms.office.com/r/2g7FUa1uK4>



第16回 茨城大学人文社会科学部 地域史シンポジウム

お問い合わせ hitoshi.soeda.carp@vc.ibaraki.ac.jp (添田仁研究室)

主催：茨城大学人文社会科学部／共催：東北大学災害科学国際研究所、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）「研究者ネットワークによる巨大災害被災地での歴史文化環境再生の研究」（代表：佐藤大介、課題番号：19H01293）、歴史文化資料保全ネットワーク東北大学拠点／後援：茨城県教育委員会、茨城新聞社、茨城大学五浦美術文化研究所、茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク、國學院大學栃木短期大学日本史フィールド、常陽藝文センター、とちぎ歴史資料ネットワーク、常陸大宮市教育委員会、ふくしま歴史資料保存ネットワーク、宮城歴史資料保全ネットワーク／協力：奥州市牛の博物館

「常陸名所図屏風」(個人蔵)